

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

立命館大学は、建学の精神を「自由と清新」、第二次世界大戦後に教学理念を「平和と民主主義」と定めており、2006（平成 18）年には学校法人立命館全体の理念として「立命館憲章」を制定した。同憲章では、「人類の未来を切り拓くために学問研究の自由にに基づき普遍的な価値の創造と人類的諸課題の解明に邁進する」こと、「その教育にあたっては建学の精神と教学理念に基づき」、「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人材の育成に努める」ことをうたっている。

このたび、立命館大学では、現在の社会からの要請に応えるとともに、高等教育機関に求められている責務を果たすため、2016（平成 28）年 4 月より情報理工学部において 40 人の 3 年次編入学定員を設置し、3 年次と 4 年次を合わせて、収容定員 80 人を増加することとする。具体的には、同学部の 4 学科（情報システム学科、情報コミュニケーション学科、メディア情報学科、知能情報学科）に 10 人ずつ計 40 人の 3 年次編入学定員を設定する。

本学はこの変更により、3 年次編入学定員を 40 人、収容定員を 80 人増加することとする。収容定員変更の内容および内訳は下表のとおりである（下線部分は変更部分）。

<表 2016（平成 28）年度 立命館大学の入学定員、編入学定員および収容定員>

学部	学科	入学定員	3 年次 編入学定員	収容定員
法学部	法学科	790		3,160
経済学部	経済学科	535		2,140
	国際経済学科	200		800
	計	735		2,940
経営学部	経営学科	610		2,440
	国際経営学科	150		600
	計	760		3,040
産業社会学部	現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	840		3,360
	子ども社会専攻	60		240
	計	900		3,600
文学部（※1）	人文学科	905		3,620
理工学部	電気電子工学科	142	12	592
	機械工学科	160	10	660

	都市システム工学科	84	2	340
	環境システム工学科	69	2	280
	ロボティクス学科	83	6	344
	数理科学科	90		360
	物理科学科	80		320
	電子情報工学科	94	8	392
	建築都市デザイン学科	70	16	312
	計	872	56	3,600
国際関係学部	国際関係学科	305	0	1,220
政策科学部	政策科学科	360		1,440
情報理工学部	情報システム学科	110	<u>10</u>	<u>460</u>
	情報コミュニケーション学科	110	<u>10</u>	<u>460</u>
	メディア情報学科	110	<u>10</u>	<u>460</u>
	知能情報学科	110	<u>10</u>	<u>460</u>
	計	440	<u>40</u>	<u>1,840</u>
映像学部	映像学科	150		600
薬学部	薬学科	100		600
	創薬科学科	60		240
	計	160		840
生命科学部	応用化学科	80		320
	生物工学科	80		320
	生命情報学科	60		240
	生命医科学科	60		240
	計	280		1,120
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	220		880
総合心理学部 (※2)	総合心理学科	280		1,120
合計		7,157	<u>96</u>	<u>29,020</u>

※1 2015（平成27）年3月収容定員関係学則変更認可申請

（定員変更：入学定員1,105人→905人、収容定員4,420人→3,620人）

※2 2015（平成27）年4月設置届出（学部の設置）

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

立命館大学では、教育研究や科学技術の動向を踏まえるなかで教育研究組織の設置や改

組、教学改革を行い、豊かな人間性や国際性を備えた多様な人材の養成に努めてきた。さらに教育研究を基本的な使命とする大学として意義を有する教学改革を不断に実行するために、大学の運営体制の充実・整備を行ってきた。こうした教育研究活動の展開に関する評価の1つは、大学全体や各学部に対する志願者数の状況に表れている（資料1 立命館大学学部別入試状況（2014（平成26）年5月1日現在））。

高等教育機関の社会的な使命に立脚して、教育研究水準の維持・向上や教育研究環境の整備を図りつつ本学への進学を希望する多様な学生を受け入れ、社会に有為な学生を輩出することは、高等教育機関としての基本的な責務である。本学では、このような責務や要請に積極的に応えていくことが必要であると考え、このたび既設の情報理工学部を3年次編入学定員を設置する形で大学全体の収容定員を増加して学則変更（収容定員変更）を申請することとした。

情報理工学部において3年次編入学定員を新設する趣旨および必要性は次のとおりである。

立命館大学は、創立者である中川小十郎が、学祖西園寺公望の「自由主義と国際主義」の精神と受け継ぎ、「自由と清心」を建学の精神とした学問の府の創造を目指したものであり、「国際主義」の精神が脈々と流れている。また、「立命館憲章」においても「アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立」していくことをあらためて確認している。

このような本学全体の方向性を情報理工学部は共有しながら、その教育研究上の目的を、情報科学を基礎とした多様な分野の教育研究を通じて、グローバルコモンセンスと独創性を持ち、革新的に社会の課題を解決していく人材を育成することであると定めている。

同学部は2004（平成16）年4月の開設以来、「国際社会を舞台に活躍できる人材の育成」を人材育成目的の1つに掲げ、とりわけ教育・研究の国際化を積極的に推進してきた。2013（平成25）年には、同学部が国際化推進の事業として、中国（遼寧省大連市）の大連理工大学軟件学院（以下、「大連理工大学」という。）と共同で「大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部」（以下、「共同学部」という。）を大連理工大学開発区キャンパス内に設置した。こうした事業は日本と中国で初めての試みであり、本事業では大連理工大学の入学者100人の内40人が、同大学での2年間の学習を経て、3年次に本学の情報理工学部に入り、2年間の学習を行ったうえで、両大学の学位を取得するダブル・ディグリープログラムである。本事業は情報理工学部のみならず本学全体においても、日中で共同して新たな人材育成を行う広大なプロジェクトである。

このような本事業によって、2014（平成26）年9月に共同学部に入学者の第1期生の内40人について、2016（平成28）年9月に情報理工学部の3年次としての受け入れを予定しており、これに対応した情報理工学部の編入学定員の設定およびそれともなう立命館大学の学則変更（収容定員変更）が必要となる。

情報理工学部は、上述した「国際社会を舞台に活躍できる人材の育成」を含む次のような人材育成目的を定めているが、本取り組みは同学部の国際化を推進する取り組みそのものとなっている。

＜人材育成目的・養成する人材像＞

情報理工学部は、最先端の情報科学技術に関する教育・研究によって、21世紀の“情報化社会”を担う人材を養成する。本学部が養成する人材像とは次のようなものである。

1. 確固たる専門性と独創性をおね備えた人材

数学、自然科学に関する知識を基礎とし、情報科学技術に関わる確固たる専門力量を持ちながら異分野の科学・技術との接点を見出し、問題解決や新たな研究領域を創成できる能力を持った人材

2. 国際社会を舞台に活躍できる人材

論理的な記述力、プレゼンテーション能力、討議などのコミュニケーション能力に加え、高い英語運用能力を持ち、国際的に情報分野でリードする人材、グローバルな視点から多面的に物事を捉え、社会に貢献できる人材

3. 高いキャリア意識をもつ人材

情報科学技術を学ぶ上での目的意識と、情報科学技術の高度化による人間、社会、文化などへの影響に関する深い洞察力を持ち、情報科学技術の先行きを見通して自主的、継続的に学習できる人材、また、高度な資格を持つなどキャリア意識の高い人材

4. 高度な情報技術を適切に活かせる人材

情報科学技術の素養の上に企画・管理・運営などのマネジメント能力を持った人材、さらに起業的発想を持ち得る人材

情報理工学部では国際化に関わって、JICA ハノイ工科大学 IT 高等教育人材育成プログラム（2006（平成 18）年から 6 年間）、「アジア人財資金構想」産学連携による実践的 IT マネージメント人材育成プログラム（2007（平成 19）年から 6 年間）をはじめ、過去に学部として様々なプログラムに取り組んできた。また、現在は、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」実践的 IT マネージメント人材育成プログラム、「文部科学省グローバル人材育成推進事業」グローバル IT 人材育成リーディングプログラム（みらい塾）（いずれも 2012（平成 24）年から 5 年間）に学部として取り組んでいる。これらのプログラム以外にも、かねてから、ロシア、インド、タイ、アメリカ、フランスの大学などと様々な国際交流を行い、短期、長期で学生の派遣や受け入れなども行っている。

情報理工学部では、数ある交流先の中で、特に、中国の大学との交流を歴史的に行ってきた。その内、大連理工大学とは 2007（平成 19）年 10 月より相互訪問を含めた教育・研究交流を進めてきた。共同学部については、2009（平成 21）年 10 月、大連理工大学軟件学院・院長（学部長に相当）を始めとした代表団が情報理工学部を訪問し、日中共同でソフトウェア学部を設立する構想に関して、協力要請があったことに始まる。これを受けて、本学そして大連理工大学で様々な検討が行われ、共同学部は 2013（平成 25）年 3 月に中国教育省によって正式認可を受け、2014（平成 26）年 9 月に開学して、入学者を迎えている。

同学部の開学にあたっては当初予定した 100 人規模の入学者が確保されており、今後は、40 人の学生を情報理工学部を受け入れるのを待つのみとなっていることから、情報理工学

部において3年次編入学定員を設置してこれらに対応するものである。

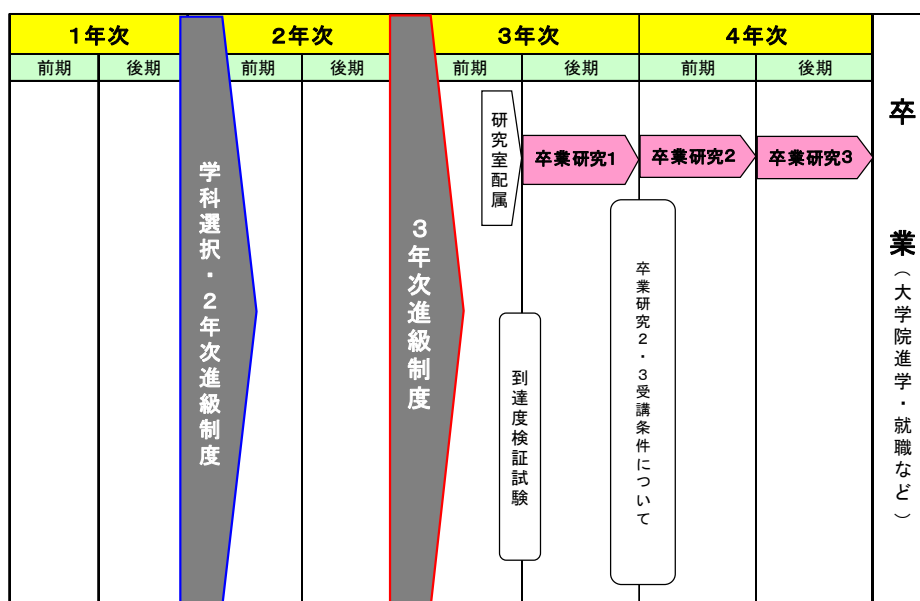
なお、以下のとおり、3年次編入学定員40名の確保見込みを確認している。まず、3年次編入40名が確保されるためには、これを上回る入学者確保が前提となるが、この点については、大連理工大学側で当初予定した人数規模の入学者が既に確保されている。また、現時点でも予想を上回る来日希望者が確認できており、その点においても3年次編入40名の選別が厳しい競争下で実施されるものと予想している。さらに、留学生の場合にしばしば課題となる経費支弁についても、既に小規模でパイロット的に実施している学生について経済的に問題ない旨確認できており、この点についても編入学40名を確保し、立命館大学情報理工学部で2年間学修するにあたって特段問題ないと判断している。以上のことから、3年次編入学定員40名の確保を確実にしめる諸条件のもとで、本格的な受入が実施されるものと判断している。なお、当面の確保のみならず、以下の通り、長期的にも、編入学定員40名の継続的な確保に一定見通しを持っている点についてあわせて説明をしたい。まず、本事業が3年次編入学定員40名の履行を両大学が協力して長きに渡り実施していくという長期計画のもとに実施されているという点があげられる。具体的には、大連理工大学と共同設置した理事会が定期的開催されることになっており、その時々マーケット、募集状況、それに対応した教育カリキュラムや学費水準等を分析・検討しながら長期計画を実施していくことが体制として担保されている。また、中国における高等教育情勢の拡大基調が続いており、本事業の継続的な営みを強く支えている。さらに、中国のIT産業は、労働コスト強みをいかして受注生産する段階から自らのアイデアで生産する段階へとシフトしており、本事業が目指すような創造的なIT人材がまさしくこれから中国IT企業に必要なとされるような人材育成のモデルを示すものとしてマーケット需要を強く持っている点がある。以上にあげた様々な状況から、当面の見通しのみならず、長期的にも編入学定員の維持が十分可能な状況が整っていると判断している。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

情報理工学部では、前述の人材育成目的にもとづき、以下のように教育課程を編成している。共同学部から送り出され、情報理工学部で受け入れる学生は、情報理工学部がもつ特色のある教育課程のもとで学習することになる。なお、既設学部等の教育課程に変更はない。

（ア） 教育課程の変更内容

情報理工学部は、4年間を通じての系統履修を教育課程の主要な特長としている。また、要所要所で履修状況をチェックするため、2年次、3年次の進級制度、到達度検証試験、卒業研究の着手のための受講条件設定などを制度として整備している。なお、年次ごとに到達目標を示し、カリキュラムツリーやカリキュラムマップを学科毎に作成し学生に提示するなど、学生が体系化されたカリキュラムを自ら確認し、自らの学びに沿った履修が設計できるよう工夫をしている。



学生は2年次以降各学科に配属され、2年次前期・後期、3年次前期においては学部横断の「共通専門科目」と学科毎の「学科専門科目」を同時に履修しながら、3年次後期からの研究室配属を前に、研究に必要な知識ならびに技能を修得することになる。そして、3年次後期から、各学科の研究室に配属され、各学生がテーマをもって卒業研究を行うことになる。

以上のような系統的な履修を行いながら、下表のとおり、外国語科目、教養科目、専門科目、ならびに自由科目をバランスよく単位修得することによって、卒業に必要な124単位以上を満たせば、学士（工学）が授与される。

科目分野		
外国語科目		
教養科目		
専門科目	専門基礎科目	数学科目
		基礎科学科目
	共通専門科目	数理科目
		情報科目
		英語専門科目
		特殊講義
		実験科目
	学科専門科目	演習科目
		卒業研究科目
		学科固有科目
特殊講義		
キャリア養成科目		
自由科目		

大連理工大学での共同学部のカリキュラムは、全体として情報理工学部をベースにして設計されており、系統履修を特長とする情報理工学部との接続性に配慮したものとなっている。したがって、大連理工大学での1、2年次の学びは、情報理工学部での1、2年次に対応した内容で設計されており、情報理工学部3年次、4年次を含めた4年間を通じて、情報理工学部が特色とする系統履修やその他様々な特色あるプログラムのもとで学習をすることとなる。つまり、共同学部の学生は、1年次より情報理工学部に入學した学生に施される教育課程とほぼ同様の内容を受けることができることを目指している。

以上のことから、共同学部の学生の受け入れに伴う教育課程の枠組みの変更は伴わない。ただし、情報理工学部では、系統履修を重視しており、進級制度や卒業研究の着手条件を厳しく設定している関係から、系統履修上、不都合が発生しないよう配慮を行っている。具体的には、万が一、共同学部の学生を情報理工学部を受け入れる際、情報理工学部への読替え単位数の関係で4年次の卒業研究の着手条件にみえない場合への対応として、卒業研究の受講時期を一定緩和するなど対応をとっている。(具体的には、4年次の卒業研究の受講は、4年次前期「卒業研究2」、4年次後期「卒業研究3」となっている。ただし、単位数の関係で4年次の卒業研究の着手が遅れることへの備えとして、4年次後期「卒業研究2」、5年次前期「卒業研究3」の受講も可能となるよう変更を行っている。)

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

1. 教育方法

1年次は、専門基礎科目(数学・物理等)、共通専門科目(プログラミング演習や情報倫理等)など、2年次からの学科配属に必要な知識を学びながら、一方で、外国語(英語)、教養科目を履修する。2年次以降は学科に配属され、各学科で特色ある教育が行われる。特に、3年次以降の特色ある教育を共同学部の学生は履修する。

情報システム学科は、情報科学と情報工学をベースに、情報化社会に不可欠な情報システムに関する技術を学ぶ。コンピュータシステムのハードウェアとソフトウェアの開発・管理・運用に関する技術を中心に、先進的な教育・研究を展開する。個人レベルから世界規模の巨大システムまで、多彩な情報システムを自在に構築し、利用できる力の修得を目指す。

情報コミュニケーション学科は、コンピュータと様々な機器を接続する「情報ネットワーク」技術、人と人との交流における「ヒューマンコミュニケーション」技術、人とコンピュータを連携させる「インタラクションソフトウェア」技術の各領域の最先端技術を学習する。コミュニケーションシステムに関する理論はもとより、高度な応用技術の修得を目指す。

メディア情報学科は、情報システムと人間とをつなぐ「メディア情報」について、画像メディア技術・音声メディア技術・テキストメディア技術の基礎的な知識とスキルを身につける。さらに、これらのテクノロジーを応用し、次世代の仮想空間(バーチャルリアリティ)を構築することができるハイレベルなインタフェース技術を学ぶ。

知能情報学科は、間工学や脳科学などによる「生体知能」の計測や分析、ソフトコンピ

ューティングに基づいた「計算知能」の設計と構築、知能ロボティクスを駆使した「機械知能」の解析と実現を目指す。以上の3つの立場から知能情報処理技術の教育・研究を行い、世界最高水準の知識とスキルを身につけた技術者・研究者を養成する。

共同学部の学生は、3年次後期より、各学科の研究室に配属され、各学科の教育上の到達目標のもと、所属学科の研究室ならびに学科の科目を履修する。

なお、各学科の特色ある学びのみならず、情報理工学部として特色のある教育を内容に取り組んでいる。

まず、小集団教育であるが、それぞれの年次で、以下のとおり小集団科目を設置している。これをもって、本学が特徴としている「自主的・集团的学習の活性化」、「学問観の形成と学習スタイルの確立」、「自治能力の養成」を学部としても実践している。

学科別小集団教育科目一覧

【2012（平成24）年度以降入学生カリキュラム】

学科	1年次	2年次	3年次	4年次
情報システム	「情報理工基礎演習」 「プログラミング演習2」	「情報システム学実験1」 「情報システム学実験2」	「情報システム学実験3」 「卒業研究1」	「卒業研究2」 「卒業研究3」
情報コミュニケーション		「情報コミュニケーション学実験I」 「情報コミュニケーション学実験II」	「情報コミュニケーション学実験III」 「卒業研究1」	「卒業研究2」 「卒業研究3」
メディア情報		「メディア情報学実験1」 「メディア情報学実験2」	「メディア情報学実験3」 「卒業研究1」	「卒業研究2」 「卒業研究3」
知能情報		「知能情報処理演習1」 「知能情報学実験I」	「知能情報学実験II」 「卒業研究1」	「卒業研究2」 「卒業研究3」

また、学生の学びの幅を広げるものとして、キャリア養成科目や海外IT研修プログラム、海外インターンシップ・プログラムなども履修できるようになっている。キャリア養成科目については、情報関連企業の技術者、研究者が講義する「企業連携プログラム、基本情報技術者試験や応用情報技術試験の資格取得につながる「情報系資格取得プログラム、テクノロジーとマネジメントを融合させたMOT（技術経営）を学ぶ「MOT入門プログラム」等多彩なプログラムを用意している。

2. 履修指導方法

年次、学科ごとに設定された到達目標に沿ったカリキュラム編成が行われており、同内容が学科ごとカリキュラムマップ、カリキュラムツリーによって学生に示された上で、これに基づき履修指導が行われる。

1年次は、自然科学・数学・語学などの基礎学力、情報技術者としての正しい倫理観、ならびに情報科学における各分野共通の基礎知識を幅広く修得し、専門分野を学ぶ上での基礎を固めるとともに、プログラミングの入門として基礎的な文法およびアルゴリズム

ムを修得することを到達目標とする。

2 年次以降は各学科に配属され、以下のとおり学科ごとに到達目標が設定されている。

情報システム学科

< 2 年次 >

情報システムを構成するハードウェア、ソフトウェア、ネットワークで用いられている原理・理論、および代表的な構成法を修得する。また、演習・実験科目を通じて、原理・理論・構成法を実践的に理解する。

< 3 年次 >

情報システムの設計・構築・管理・運用技術を学ぶとともに、より高度なプログラムの開発能力を修得する。また、研究室への配属を通じて、履修モデルを考慮した個人のキャリアを計画し、さらに専門的な知識・技術を修得する。

< 4 年次 >

卒業研究テーマを通じ、問題の分析・解決、情報システム構築と評価の一連の流れを体験し、専門的な知識・技術およびその方法論を確固たるものとして体得する。さらに、日常の研究活動や卒業論文とその発表を通じて、ドキュメンテーション能力やプレゼンテーション能力を習得する。

情報コミュニケーション学科

< 2 年次 >

情報コミュニケーション及びそのシステムの基礎的な概念について講義をとおして修得するとともに、実験科目によってハードウェア、ソフトウェア、ネットワークおよび人間から構成されるシステムの動作原理を理解する。

< 3 年次 >

情報通信ネットワークおよびコミュニケーションシステムに関する専門知識を学び、新しい分野へ応用できる能力を身につける。また、実験及び創成科目をとおして情報コミュニケーションシステム構築にかかわる実践的な能力を培う。

< 4 年次 >

修得した知識と技術に基づいて具体的課題を発見し、それを解決する能力を卒業研究をとおして培うとともに、自らの考えを明解かつ論理的に説明するコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

メディア情報学科

< 2 年次 >

語学などの基礎科目に加え、プログラミングの発展的な能力を身につける。さらに、共通専門科目・学科専門科目・実験をとおして言語・音声・図形・画像などのメディア情報をコンピュータで扱うための基礎となる知識と技術を修得する。

< 3年次 >

学科専門科目をとおして画像系、音・言語系およびヒューマンインタフェース系の各分野についての専門的な知識と技術を修得するとともに、実験をとおして実践的な能力を培う。また、演習科目をとおして研究活動に取り組むための基礎を修得する。さらに、卒業研究1をとおして専門分野の研究動向および従来研究を把握し、研究活動に着手する。

< 4年次 >

卒業研究での本格的な研究活動をとおして専門的な知識を修得するとともに、課題に対する解決方法を発見・実現する能力、および成果をわかりやすく正確に公表する能力など、技術者や研究者に要求される能力を修得する。併せて、自主的な学習能力や自己表現能力を身につける。

知能情報学科

< 2年次 >

3つの知能情報分野（生体知能、計算知能、機械知能）における基礎知識を修得する。とくに演習・実験をとおして、画像処理や信号処理における具体的なプログラミング能力を向上させ、生体計測や心理計測技術を修得し、電子回路やセンサー動作を理解し活用できるようにする。またレポート作成をとおして、科学技術論文の書き方の基礎を修得する。

< 3年次 >

3つの知能情報分野（生体知能、計算知能、機械知能）に関する専門知識をさらに深化・拡充させる。さらに自発的に課題を発見また設定し、適切な手法を用いて研究を遂行する能力を身につける。

< 4年次 >

卒業研究をとおして最先端の研究に触れ、専門的な知識を修得する。技術者や研究者に必要とされる研究遂行能力、成果を正確かつ効果的に発表するプレゼンテーション能力や論文作成能力を修得する。

(ウ) 教員組織の変更内容

情報理工学部における教員編成の基本的考え方および共同学部からの受け入れに関わる教員組織の特色は、以下のとおりであり、収容定員の増加に対応できる。

1. 教員組織の編成の基本的考え方

- (1) 専任教員は、情報理工学部所属教員のみで編成されている。
- (2) 教授、准教授等の専任教員組織については、教員組織に関わる大学設置基準に則り、職位構成、年齢構成等が配慮されている。

2. 共同学部からの受け入れに関わる教員組織の特色

共同学部からの受け入れについては、その運営を支える教員として7人相当の教員体制整備が行われている。その内、2人は本取り組みのコーディネータとして授業運

営に関わるコーディネートの役割を担っている。また、当該 7 人相当教員のみならず、既存の教員を必要に応じて情報理工学部から大連理工大学に派遣するなど、学部の全教員の協力体制をもとに運営を行っている。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

情報理工学部は、びわこ・くさつキャンパス（以下、「BKC」という。）に設置されている。BKC は JR 南草津駅を最寄り駅としており、同駅がバスで 10 分から 20 分程度の場所にある。現在は、新快速の停車駅となるなど、大阪府の北部あるいは南部までが通学圏として広がっている。BKC には、学部では、経済学部、スポーツ健康科学部、理工学部、生命科学部、薬学部、さらに情報理工学部が、研究科では経済学研究科、スポーツ健康科学研究科、理工学研究科、生命科学研究科、薬学研究科、そして情報理工学研究科がある。キャンパス内には、教室棟に加えて、図書館、保健センター、産官学連携施設、体育館等が設置されている。

情報理工学部・情報理工学研究科は、クリエーションコアを拠点としており、事務室、教員研究室、卒業研究室、実験室などが位置する。特に、2 年次以降の学科配属から研究室配属にいたる教育・研究は、クリエーションコアに位置する卒業研究室や実験室を中心に行われる。1 年次の授業については、BKC に複数の教室棟があり、情報教室なども多数ある。具体的には、アクロスウィング、カラーニングハウスⅠ、カラーニングハウスⅡ、フォレストハウス、プリズムハウス、ラルカディア、アドセミナリオといった教室棟を利用している。それぞれ小教室、中教室、大教室が必要数確保されており、また、情報環境を中心として施設・設備に適宜整備されている。

なお、クリエーションコア 1 階と 2 階の一部は、現在、生命科学部、薬学部で利用されているが、両学部の専用棟の建設に伴い、この部分が情報理工学部・情報理工学研究科のスペースとして 2016（平成 28）年度に使用可能となる。情報理工学部・情報理工学研究科で、学生の教育・研究にさらなる高度化に活用する予定である。

以上により、施設・設備において、収容定員の変更後でも、これまで同等以上の教育研究を展開することができる。

<資料1 立命館大学 学部別入試状況 (2014 (平成26) 年5月1日現在) >

<立命館大学>

■学部別 一般入試 入学定員・志願者数・受験者数・合格者数・競争率

(単位:名)

学部	年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
法学部	2014	790	6,610	6,472	3,343	1.9
	2013	790	6,687	6,546	2,845	2.3
	2012	790	6,414	6,274	2,727	2.3
経済学部	2014	735	7,503	7,341	3,539	2.1
	2013	735	7,427	7,233	3,281	2.2
	2012	735	8,483	8,313	3,657	2.3
経営学部	2014	760	8,194	7,995	2,619	3.1
	2013	760	6,646	6,501	2,185	3.0
	2012	760	7,650	7,495	2,035	3.7
産業社会学部	2014	900	10,237	10,000	2,537	3.9
	2013	900	9,419	9,218	2,377	3.9
	2012	900	9,752	9,571	2,362	4.1
文学部	2014	1,105	11,233	11,070	3,900	2.8
	2013	1,105	10,571	10,364	3,212	3.2
	2012	1,105	11,145	10,914	3,155	3.5
理工学部	2014	872	18,830	18,366	6,747	2.7
	2013	872	17,412	16,937	5,985	2.8
	2012	872	16,928	16,498	6,457	2.6
国際関係学部	2014	305	2,638	2,590	778	3.3
	2013	305	2,300	2,250	697	3.2
	2012	302	3,220	3,146	658	4.8
政策科学部	2014	360	3,446	3,388	1,168	2.9
	2013	360	3,422	3,355	1,152	2.9
	2012	360	3,518	3,459	1,084	3.2
情報理工学部	2014	440	5,157	4,974	1,803	2.8
	2013	440	5,200	5,051	1,765	2.9
	2012	440	5,061	4,925	1,734	2.8
映像学部	2014	150	1,351	1,320	347	3.8
	2013	150	1,174	1,153	305	3.8
	2012	150	1,458	1,434	301	4.8
薬学部	2014	100	2,158	2,090	620	3.4
	2013	100	2,394	2,304	545	4.2
	2012	100	2,204	2,124	613	3.5
生命科学部	2014	280	7,145	6,959	2,403	2.9
	2013	280	7,544	7,378	2,150	3.4
	2012	280	7,266	7,091	2,403	3.0
スポーツ健康科学部	2014	220	2,433	2,389	599	4.0
	2013	220	2,441	2,384	548	4.4
	2012	220	2,039	2,006	488	4.1
合計	2014	7,017	86,935	84,954	30,403	2.8
	2013	7,017	82,637	80,674	27,047	3.0
	2012	7,014	85,138	83,250	27,674	3.0

※各年度の4月入学者を対象として集計。

※国際関係学部の入学定員は、9月入学の数を含む。

※2014年度の政策科学部の入学定員は、9月入学の数を含む。

(出所) 立命館大学ホームページ データで見る立命館 5. 入試 5-1 立命館大学 学部別入試状況 (http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/public04_11_5-1.pdf)